

新収集品展 2022・2023

令和6年12月24日(火)～令和7年2月24日(月・祝)

Mission : 収蔵資料をリスクから守り抜け!

当館は大宮公園の中にあります。公園には様々な虫が生息しており、博物館資料を食べたり、糞で資料を汚したりする虫(文化財害虫)もいます。それら害虫が館内にいないかを調べるために、捕虫トラップ(写真下)を仕掛けています。

また、定期的に資料の清掃や、状態の確認も行っています。新たな虫食いが無いか確認することで、早期に対応ができ、他の資料に被害が出る前に食い止めることができます。



資料の確認作業



捕虫トラップ

Mission : 次世代に資料を伝えよ!

資料の劣化要因は、温湿度、光、空気環境、振動、災害などが挙げられます。こうした複合的な要因から資料を守り、次世代に継承することが私たちの重要な使命です。収蔵庫ではもちろんのこと、展示中も資料にとってよい環境にするように努めます。例えば、展示室内の温湿度、明るさが適切か、資料が転倒・転落しないかなど、さまざまな配慮をしています。



転倒・転落防止のテグス止めをした土器



自記温湿度計



貴重な資料をご寄贈くださいました皆さま、ありがとうございました。

収集資料一覧

令和4年度(2022年度)

No.	資料	数量	時代・時期	寄贈者等
1	足軽胴、陣笠、浮世絵等	4	江戸時代	個人
2	張り子	17	昭和～平成時代	個人
3	押絵羽子板面相師・高瀬家関係資料	118	昭和～平成時代	個人
4	埼玉国体関係資料	16	昭和40年代(1965～1974)	個人
5	札幌オリンピック公式記念メダル	1	昭和47年(1972)	個人
6	東京2020オリンピック・パラリンピックメダル	6	令和2～3年頃(2020～2021)	埼玉県オリンピック・パラリンピック課
7	藩札(御産物木綿預手形)	1	慶応元年(1865)	個人
8	引札、絵葉書	4	大正～昭和戦前期	個人
9	日光社参関係資料	4	天保11～15年(1840～44)	購入
10	絵葉書	17	大正時代	購入
11	鳥瞰図 大宮/秩父鉄道沿線案内	2	大正～昭和時代	購入
12	新刻 太平記	21	江戸時代中後期	購入
13	足軽胴、陣笠	4	江戸時代	購入
14	森玄黄斎筆「紙本墨画 鍾馗図」	1	慶応3年(1867)	購入
15	伊草宿関係資料	13	江戸時代	購入
16	刷り物(絵図、浮世絵等)	25	江戸～明治時代	購入

令和5年度(2023年度)

No.	資料	数量	時代・時期	寄贈者等
17	鍋(ホットパン)、干支置物、铸物置物	5	平成時代	伊藤鉄工株式会社
18	秩父織物ポスター	2	昭和20～30年代(1945～1964)	個人
19	花火関連資料 割物模型、素材	12	平成～令和時代	根岸火工有限会社
20	横山華山筆「絹本着色 蓬莱山図」	1	江戸時代後期	個人
21	五月節句飾り	17	昭和時代	個人
22	老中書状	2	江戸時代	購入
23	埼玉県戦時関係資料	30	大正～昭和時代	購入
24	浮世絵(開化絵等)	6	江戸～明治時代	購入
25	都風俗化粧伝 上・中・下巻	3	文化10年(1813)	購入
26	足軽胴	3	江戸時代	購入
27	絵葉書	17	大正～昭和時代	購入
28	伝単	1	昭和19年～20年(1944～1945)	購入
29	オリンピック東京大会記念風呂敷	1	昭和39年(1964)	購入
30	防空警報(ポスター)	1	昭和時代	購入

これからもよろしくね!

凡例
 ・資料名に付した番号は「収集資料一覧」の番号と一致しますが、番号順には掲載していません。また、複数の資料から成る資料群については、一部のみを紹介しています。
 ・資料の保存状態等を考慮し、一部展示していない資料があります。また本紙の掲載順序と会場での展示順序は異なります。
 ・資料引用を一部新字体に改めました。また図版の縮尺は資料ごとに異なります。
 ・本展は濱田翠(当館学芸員)、田口志織(同)が担当し、リーフレットの執筆は保存科学分野を濱田、それ以外を田口が担当しました。

発行日 令和6年(2024)12月24日
 編集・発行 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町四丁目219番地
 電話 048-645-8171(学芸) FAX 048-640-1964



みなさま、こんにちは。少し前から歴史と民俗の博物館でお世話になっている「張り子のうさぎ」と申します。みなさまにお会いできることを楽しみにしていました。
 歴史と民俗の博物館は昭和46年(1971)の開館以来、埼玉における人々の暮らしや文化に関わる歴史資料、民俗資料、古美術作品を収集してきました。現在収蔵庫には約13万点の仲間たちがいて、展示室という表舞台に出るのを心待ちにしています。
 この展覧会では、令和4年度と令和5年度に新たに加わった仲間と、私たちの博物館での暮らしをご紹介します。

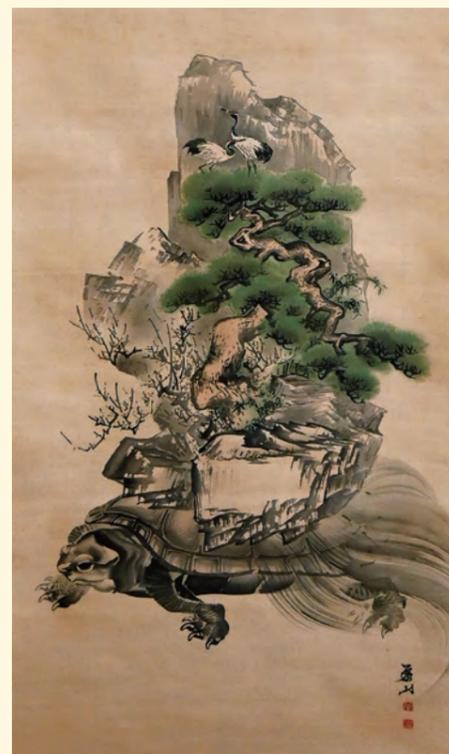


20 横山華山筆「蓬莱山図」

蓬莱山は、古代中国の神仙思想において仙人が住む山の一つとされます。またその山は、中国の古典や神話において、神獣の亀が背負っていると考えられていました。画面には、松竹梅や鶴亀などの縁起物や、不老不死の楽園とされる蓬莱山が描かれています。どれをとってもおめでたい、吉祥のモチーフが描かれた作品です。

本作を描いたのは、江戸時代後期に京都で活躍した絵師の横山華山(1781(または1784)～1837)です。華山は江戸時代中期に活躍した絵師、岸駒や呉春に学びました。

一般的に蓬莱山図の亀は、蓬莱山を背に乗せられるほどの大きな神獣のイメージですが、本作はまるで亀が盆栽を背負っているように見えます。



(部分)

8 引札

引札とは近世から近代にかけて作成された、店名や商品を宣伝するための広告用の印刷物のことです。本資料は秩父町(現秩父市)に所在した米穀木炭商田沼屋の正月用の引札です。画面上部は朝日に梅、大正10年(1921)の干支のニワトリなど、新年にふさわしいモチーフが描かれています。

画面下部は新暦と旧暦が併記されたカレンダーになっています。明治5年(1872)、政府は「太陰暦ヲ廢シ太陽暦ヲ行フ附詔書」を發布(翌6年施行)し、太陽暦を導入しました。しかし、それから半世紀後の大正10年当時でも、人々は太陰暦も併用していたことがうかがえます。

今でも年末年始に企業からカレンダーを貰うことはありませんか? 年の変わりの挨拶をかねて広告入りのカレンダーを渡すのは、変わらない文化のようです。



3 押絵羽子板面相師・高瀬家関係資料



親子2代にわたって押絵羽子板の面相師として活躍した、高瀬家の資料です。押絵羽子板の製作過程のなかで、面相師は、押絵の顔や手足を描き、設計図ともいえる下図の作成もします。押絵とは布、綿、厚紙で作る立体的な絵画で、羽子板の装飾などに使われます。

下図



製品

19 花火関連資料

秩父地域で伝統的に花火製作をしている花火師が作成した花火玉の模型および、製作に使用する素材です。



写真は令和5年度に当館が開催した民俗工芸実演で実際に製作していただいた模型です。通常の花火玉とは異なり、火薬の代わりに木製ビーズや綿の実を使用しています。



表



裏

7 藩札(御産物木綿預手形)

藩札は、江戸時代に諸藩が発行した領内でのみ使用可能な紙幣です。

本資料は、幕末期に一橋家が財政再建のために、領地の播州今市(現兵庫県高砂市)で発行したものです。特産品である木綿の売買の際に使用されました。

この発行に関わったのは幕末期に一橋家の家臣であった、渋沢栄一です。



1 足軽胴

足軽が身につける武具の足軽胴は、前後二枚の胴を、左側を蝶番でとめ、右側を紐で綴じ合わせるのが基本形です。写真は江戸時代後期につくられたものです。

足軽の多くは自前の武具を持っておらず、主君から貸し出されていたため、胴には主君の家紋が付されています。



メダル裏面

5 札幌オリンピック公式記念メダル

昭和47年(1972)に開催された札幌冬季オリンピックの公式記念メダルです。メダルには大会名とシンボルロゴが描かれています。本資料からは高度経済成長期の人々のくらしがわかります。



18 秩父織物ポスター

秩父織物同業組合が昭和20年代から30年代頃に作成した絹織物製品の販売促進ポスターです。養蚕が盛んであった秩父地域では、製糸、絹織物業も盛んでした。また製品の生産にとどまらず、販売促進や広報にも力をいれており、しばしば有名女優を起用していました。本資料のモデルは、戦後に活躍した東宝の映画女優兼シャンソン歌手の島崎雪子(1931~2014)です。

画面左下には、みやま御召、模様銘仙、夜具座布団地といった主力製品の商品名が見えます。なかでも1番上に名前がみえる御召は、縮緬の着物で、秩父地域の絹織物製品としては、銘仙に続くヒット商品でした。御召は高級品であり、贅沢品が好ましく思われなかった戦中期は生産が禁じられましたが、戦後にはさまざまな图案の御召が製作されるなど、息の長い製品でした。

17 鋳物置物「上昇気龍」

本資料は、戦前期はストーブの製造、現在はキッチン用品などを手がける、伊藤鉄工株式会社(いとうてつこうがくしや)が製作しました。同社は鋳物製造が盛んな川口市に所在します。

十二支にちなんだ鋳物製の置物で、物事の調子が上向きに転じる意味を持つ「上昇気流」と、製作された年の干支である龍をかけた、茶目っ気たっぷりの資料です。



2 船渡の張り子

越谷市船渡地区でつくられた張り子です。その歴史は江戸時代までさかのぼり、亀戸天神の境内の茶店で参詣土産として売られていたことから「亀戸張り子」とも呼ばれます。

製作技術は代々松崎家が受け継いでいましたが、6代目の久男氏を最後に途絶えており、本資料は同氏が製作した貴重な資料です。

船渡の張り子のうさぎは初收藏なんだってさ。



ウサギ



とら

とうなすお 唐茄子鼠

そうなんだー!



4 埼玉国体関係資料

昭和42年(1967)に埼玉県で開催された第22回国民体育大会に関する資料です。記念盾やタペストリー、ソノシートなど、いずれも大会の盛り上がり伝えるものです。特に競技を記録した写真類からは選手や観客の熱気が伝わってきます。



27 絵葉書(埼玉県商品陳列所)

埼玉県商品陳列所は、県産品の販売促進を目的として、大正3年(1914)に浦和の調公園に開設されました。絵葉書には桐箆筒や鋳物、織物、盆栽など、現在も生産が続いている県産品が写っています。

11 鳥瞰図(大宮)

まるで鳥が上空から見る世界を描いたような描き方をした地図を「鳥瞰図」と言います。本作を描いたのは、大正から昭和戦前期にかけて鳥瞰図で人気を博した、吉田初三郎(1884~1955)です。彼は歌川広重になぞらえて「大正の広重」とも評されました。縦横に広がる線路の中心には大宮駅、そばには鉄道工場が描かれており、「鉄道のまち大宮」を象徴する構図になっています。裏面には初三郎の本作に対するコメントが記されており、大宮を「緑したたるの別天地」と評しています。

